

短 報

痂状地衣類 キビノサラゴケ (*Gyalecta kibiensis* H. Harada & Yoshim.) の新産地について

川 又 明 徳*

New locality of *Gyalecta kibiensis* H. Harada & Yoshim. ; crustose lichens, in Ehime Prefecture, Shikoku, Japan
Akinori Kawamata

A crustose lichens *Gyalecta kibiensis* H. Harada & Yoshim. was recorded from Seiyo City, central part of Ehime Prefecture in December 2005. This locality is limestone of riverbank in Takano river, stand by mountainous district. This discovery is the second sightings in Japan and the first record in Ehime Prefecture.

はじめに

キビノサラゴケ (*Gyalecta kibiensis* H. Harada & Yoshim.) (図1) は、岡山県高梁市の磐窟谷の石灰岩上で採集された標本に基づき、2005年に新種記載されたサラゴケ科サラゴケ属に含まれる痂状地衣である (Harada and Yoshimura, 2005). 地衣体は平滑で着生基物に痂(かさぶた)状に密着し、淡い灰緑色をしている。地衣体中央に形成される子器盤は鮮やかなオレンジ色をしており、胞子には一方に鞭状の突起が伸びている特徴がある。近縁種のジムジサラゴケ *Gyalecta japonica* Asahにも同じ特徴があるが、本種の胞子が長さ10-13 μ mに対し、後者は18-20 μ mと長いことで区別できる (吉村, 1974; Harada et al., 2004). 本種の分布はこれまでタイプ産地以外に知られていなかったが、筆者は愛媛県西予



図1 キビノサラゴケ (*Gyalecta kibiensis* H. Harada & Yoshim.)
Bar = 1 cm

市野村町においてキビノサラゴケの生育を確認したので、ここに報告する。なお、今回の発見場所である大野ヶ原は国内2例目の産地となるとともに、本報告が標本に基づく愛媛県からの本種の分布の初めての記録となる。

今回確認されたキビノサラゴケの新産地は、愛媛県西予市野村町大野ヶ原から上浮穴郡久万高原町西谷へ流れる高野川川岸の石灰岩露頭であり、標高は約1,000mの国有林内に位置する。筆者は、2005年11月28日に本種を確認し、同年12月28日に採集する機会を得た。

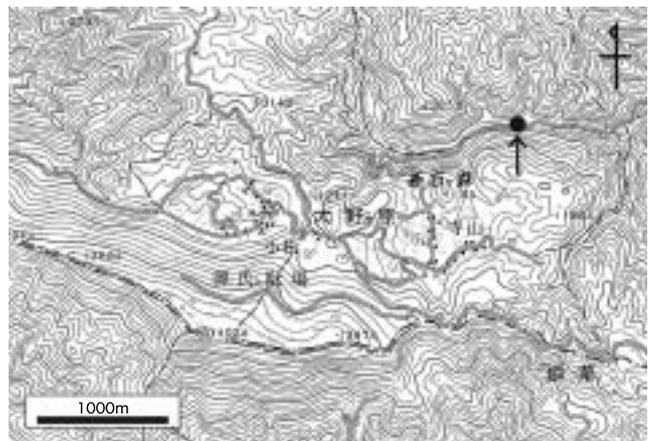


図2 愛媛県におけるキビノサラゴケの新産地 (図中の●)

高野川川床には普段水の流れはないが、発見場所の露頭は高野川の川岸にあり、大雨などによる増水時には水没する環境である。また、県内では比較的降雪量の多い所でもあり、採集時に生育地点は雪によって埋没していた。周辺の植生は、高木層がミズナラ、トチなどの落葉広葉樹が優占した落葉広葉樹林である。このため夏場は、葉により日照がさえぎられ、冬場は雪により日照が

*愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究科
Dept. of Natural History Ehime Pref. Science Museum

さえぎられるため、年間を通じての日照条件は、良いとはいえない。このため陽当たりを好む地衣類にとっては厳しい生育環境になっている。

本種のタイプ産地は石灰岩上であり、今回発見された地点でも石灰岩上に生育し、樹幹や土壌上には生育していなかった。キビノサラゴケと同属のジウムジサラゴケも石灰質を含む岩石に生育する傾向があることが知られている(原田ほか, 2005)。よって、本種もジウムジサラゴケと同様に石灰質を含む岩石に生育する傾向があると考えられる。

今回確認された生育地点は、大野ヶ原から高知県鳥形山までの延長25kmに及ぶ大規模な石灰岩台地の四国カルスト北端付近に位置している。四国カルスト内にまだ本種が生育している可能性はきわめて高い。今後、全国の石灰岩地において詳細な調査が行われた場合、新たな産地が確認される可能性も考えられる。

愛媛県全体の地衣類相に関する記録は、これまでのところ八木繁一氏によってまとめられた「愛媛県植物誌」しか存在しない(八木, 1928)。しかし、刊行されてから約80年が経過しており、分類体系の見直しにより、種や学名が変更された種も数を占めるようになった。また、松本・岩月(1996)による石鎚山など県内の特定地域における調査や、愛媛県産の標本を引用した発表も多くの研究者によってなされているものの、網羅的にまとめる取り組みは行われていない。愛媛県では2003年に県版レッドデータブックを刊行したが、この中で地衣類は調査分野としては取り上げられていなかったため、現状に合う形でのデータの蓄積が行われていなかった(愛媛県, 2003)。今後、県内の地衣類相を明らかにするためには、これまで発表のあった文献と標本からデータを収集し地衣類のフロラをまとめることが急務である。

謝 辞

本稿を報告するにあたり、千葉県立中央博物館原田浩 上席研究員と服部植物研究所高知分室吉村庸博士には標本の同定と助言をいただいた。また、愛媛森林管理署長および担当者の方々には、国有林内において採集を許可していただいた。以上の方々に記してお礼申し上げます。

引用文献

- 愛媛県貴重野生動植物検討委員会編(2003):愛媛県レッドデータブック Red Data Book, Ehime—愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物—。愛媛県県民環境部環境局自然保護課。p.447
- Harada H・Okamoto T・Yoshimura I(2004):A checklist of lichens and lichen-allies of Japan. Lichenology Vol. 2, 2. pp47-165.

- Harada H・Yoshimura I(2005):Taxonomic study on calcicolous lichens of Japan (1). *Gyalecta kibiensis* sp. nov. Lichenology Vol. 4, 1. pp13-16.
- 原田浩・吉村庸(2005):ジウムジサラゴケ(サラゴケ科地衣類)の新産地と生育地について。Lichenology Vol. 4, 1. pp41-44.
- 松本達雄・岩月善之助(1996):四国石鎚山およびその周辺地域の地衣類。Hikobia 12. pp69-84.
- 八木繁一(1928):愛媛県植物誌。松山堂書店, 松山。p.354.
- 吉村庸(1974):原色日本地衣植物図鑑。保育社, 大阪。PL48+349pp.